

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-143420

(43)Date of publication of application : 04.06.1996

(51)Int.Cl.

A61K 7/00
A61K 7/02
A61K 7/032
A61K 7/48

(21)Application number : 06-269300

(71)Applicant : PROCTER & GAMBLE CO:THE

(22)Date of filing : 02.11.1994

(72)Inventor : TANAKA HIDEKAZU
YAMADA KOSAKU
ENDO YOSHINORI
MIYATA YORIO

(54) COSMETIC MATERIAL

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a cosmetic material excellent in cleansing property, and suitable as a cleansing or a massage cosmetic material having a good washing feeling, and a cosmetic material suitable for an eye shadow having an excellent close adherence, thinly adhering, spreading well, having a transparent feeling.

CONSTITUTION: This cosmetic material contains 0.1-5 wt.% hydrophilic sucrose fatty acid ester, 0.1-5 wt.% lipophilic sucrose fatty acid ester, 0.1-5 wt.% hydrophilic nonionic surfactant other than the above hydrophilic sucrose fatty acid ester, 1-20 wt.% polyhydric alcohol, 30-90 wt.% liquid state oil and 1-20 wt.% water, and is a transparent or semi-transparent gel cosmetic material for a cleansing or a massage. By adjusting the blending amounts of each of the components of the above mentioned cosmetic material in a specific range, it is possible to obtain a suitable micro-emulsion cosmetic material suitable as a cosmetic lotion or a milky lotion. Also, a cosmetic material containing 2-60 wt.% powdery material of boron nitride and 0.2-2 wt.% di-isostearic acid diglyceryl and/or tri-isostearic acid diglyceryl in a binder, is suitable for an eye shadow.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

04.04.1997

http://www19.ipdl.jpo.go.jp/PA1/result/detail/main/wAAA_LaOBADA408143420P1.htm

5/12/2004

BEST AVAILABLE COPY

Searching PAJ

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

2849339

[Date of registration]

06.11.1998

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

06.11.2001

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-143420

(43)公開日 平成8年(1996)6月4日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/00	F			
	B			
	C			
	R			
7/02	A			
審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 6 頁) 最終頁に続く				

(21)出願番号	特願平6-269300	(71)出願人	592043805 ザ、プロクター、エンド、ギャンブル、カンパニー THE PROCTER AND GAMBLE COMPANY アメリカ合衆国オハイオ州、シンシナチ、 ワン、プロクター、エンド、ギャンブル、 プラザ (番地なし)
(22)出願日	平成6年(1994)11月2日	(72)発明者	田中 秀和 滋賀県八日市市上平木町2030-40
		(72)発明者	山田 耕作 滋賀県野洲郡野洲町大篠原3160
		(74)代理人	弁理士 目次 誠 (外1名) 最終頁に続く

(54)【発明の名称】 化粧料

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 洗浄性に優れ、洗い流し感のよいクレンジング用化粧料として適したゲル化粧料、化粧水及び乳液等として適した安定なマイクロエマルジョン化粧料、及び優れた密着性を有し、薄づきでのびが良くかつ透明感のあるアイシャドウ等として適した化粧料を提供する。

【構成】 レシチン0.1～5重量%、親水性ショ糖脂肪酸エステル0.1～5重量%、親油性ショ糖脂肪酸エステル0.1～5重量%、親水性ショ糖脂肪酸エステル以外の親水性非イオン界面活性剤0.1～5重量%、多価アルコール1～20重量%、液状油30～90重量%、水1～20重量%を含有する。

【特許請求の範囲】

1
【請求項1】 レシチン0.1～5重量%、親水性シヨ糖脂肪酸エステル0.1～5重量%、親油性シヨ糖脂肪酸エステル0.1～5重量%、前記親水性シヨ糖脂肪酸以外の親水性非イオン界面活性剤0.1～5重量%、多価アルコール1～20重量%、液状油30～90重量%、及び水1～20重量%を含有する化粧料。

【請求項2】 前記化粧料がクレンジング用またはマッサージ用の透明または半透明のゲル化粧料である請求項1に記載の化粧料。

【請求項3】 レシチン1～5重量%、親水性シヨ糖脂肪酸エステル0.1～5重量%、親油性シヨ糖脂肪酸エステル0.1～5重量%、前記親水性シヨ糖脂肪酸エステル以外の親水性非イオン界面活性剤0.1～3重量%、多価アルコール1～30重量%、液状油1～20重量%、及び水32～96.7重量%を含有する化粧料。

【請求項4】 前記化粧料が透明または半透明のマイクロエマルジョンである請求項3に記載の化粧料。

【請求項5】 窒化ホウ素粉末を含有し、かつジイソステアリン酸ジグリセリル及び/またはトリイソステアリン酸ジグリセリルをバインダ中に含有することを特徴とする化粧料。

【請求項6】 前記窒化ホウ素粉末の含有量が2～60重量%であり、前記ジイソステアリン酸ジグリセリル及び/またはトリイソステアリン酸ジグリセリルの含有量が0.2～2重量%である請求項5に記載の化粧料。

【請求項7】 前記化粧料がアイシャドウである請求項5または6に記載の化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、化粧料に関するものであり、特にクレンジング用またはマッサージ用のゲル化粧料として適した化粧料、並びにアイシャドウ等として適した化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】皮膚の汚れやメイクアップ化粧料を落とす目的で、あるいは皮膚をマッサージする目的で、油成分を皮膚へ適用する化粧料として、クレンジング化粧料及びマッサージ化粧料が知られている。これらの化粧料は、皮膚に塗布してのばし、その使用目的を果たした後は、ティッシュを用いて拭き取るティッシュオフや水による洗い流しによって皮膚から除去されるものである。このようなクレンジング化粧料等としては、オイル状のもの、水中油型エマルジョンもしくは油中水型エマルジョンのクリーム状のもの、界面活性剤中油型エマルジョンのゲル状のもの、及び一相型液晶の形態のものが知られている。

【0003】しかしながら、これらのオイル状、クリーム状、ゲル状のクレンジング化粧料やマッサージ化粧料は、使用時にべとつき、保存安定性等が悪いという欠点

があった。また、一相型液晶のクレンジング化粧料やマッサージ化粧料は、発汗時、または浴室内等の水分の多い状況下での使用に際して、水分の混入により粘度が増加してのびが重くなり、使用感が好ましくないという問題があった。さらに、一相型液晶の化粧料は、保存時の水分の混入または蒸発により、容易に相安定性が損なわれるおそれがあるため、外気の混入を防ぐ手段を施した、チューブまたはポンプ容器等に包装しなければならないという問題があった。

10 【0004】特公昭62-49247号公報には、油性スティックファンデーション、パウダーファンデーション、アイシャドウ等の化粧料に用いることができる化粧料として、窒化ホウ素粉末を配合した化粧料が開示されている。このように窒化ホウ素粉末を化粧料に配合することにより、密着性を改善することができると共に、肌への軽い・柔らかい使用感を付与することができるとされている。しかしながら、アイシャドウ等の化粧料においては、密着性と共に、のびのよさや透明感が重要であり、このような点からは、未だ不十分な化粧料であった。

20 【0005】本発明の第1の目的は、上記クレンジング化粧料やマッサージ化粧料に適した化粧料を提供することにより、洗浄性に優れ、洗い流し感が良く、水のみで除去可能な化粧料として用いることができる化粧料、並びに化粧水及び乳液等として適し安定性に優れた水中油型エマルジョンとして用いることができる化粧料を提供することにある。

【0006】本発明の第2の目的は、上記アイシャドウ等に適した化粧料を提供することにより、良好な密着性を有し、薄づきでのびが良く、かつ透明感のあるアイシャドウ等として用いることができる化粧料を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明の第1の局面に従う化粧料は、レシチン0.1～5重量%、親水性シヨ糖脂肪酸エステル0.1～5重量%、親油性シヨ糖脂肪酸エステル0.1～5重量%、上記親水性シヨ糖脂肪酸エステル以外の親水性非イオン界面活性剤0.1～5重量%、多価アルコール1～20重量%、液状油30～90重量%、及び水1～20重量%を含有することを特徴としている。

40 【0008】第1の局面に従う化粧料は、特にクレンジング用またはマッサージ用の透明または半透明のゲル化粧料として適したものである。第1の局面に従うさらに好ましい配合としては、レシチン1～2重量%、親水性シヨ糖脂肪酸エステル1～2重量%、親油性シヨ糖脂肪酸エステル0.5～1重量%、上記親水性シヨ糖脂肪酸エステル以外の親水性非イオン界面活性剤1～2重量%、多価アルコール9～20重量%、液状油60～85重量%、及び水4～15重量%の配合が挙げられる。

3

【0009】本発明の第2の局面に従う化粧料は、レシチン0.1~5重量%、親水性ショ糖脂肪酸エステル0.1~5重量%、親油性ショ糖脂肪酸エステル0.1~5重量%、上記親水性ショ糖脂肪酸エステル以外の親水性非イオン界面活性剤0.1~3重量%、多価アルコール1~30重量%、液状油1~20重量%、及び水32~96.7重量%を含有することを特徴としている。第2の局面に従う化粧料は、化粧水または乳液などの透明または半透明のマイクロエマルジョンに適したものである。

【0010】本発明において親水性とは、HLBがおよそ9以上のものをいい、親油性とは、HLBがおよそ9より小さいものをいう。なおHLBとは、親水性と親油性のバランスを示すものであり、本発明においては、小田、寺村らによる知識により算出した値を用いた。

【0011】

【数1】

$$HLB = \frac{\Sigma \text{無機性値}}{\Sigma \text{有機性値}} \times 10$$

【0012】第1の局面及び第2の局面において用いられるレシチンは、化粧料として用いられるのに適したものであればどのようなものでもよく、大豆レシチン、トウモロコシレシチン、落花生レシチン、菜種レシチンなどの植物性レシチン、卵黄レシチンなどの動物性レシチン、及びこれらを精製誘導した精製レシチン、水添レシチンなどが好ましい。特に大豆由来の精製・水添レシチンが好ましい。レシチンは、第1の局面において組成物全体の0.1~5重量%（以下、重量%を単に%で示す）、好ましくは1~2%、さらに好ましくは1.5~1.8%含有され、第2の局面においては1~5%、好ましくは0.5~2.0%含有される。

【0013】第1の局面及び第2の局面において用いられる親水性ショ糖脂肪酸エステルは、上記HLBが9以上のショ糖脂肪酸エステルであれば、特に限定されるものではない。脂肪酸残基の炭素数としては、8~36であることが好ましい。ショ糖脂肪酸エステルは、1種を単独で用いてもよいし、2種以上を組み合わせ用いてもよい。親水性ショ糖脂肪酸エステルの配合量は、第1の局面において組成物全体の0.1~5%、好ましくは1~2%、第2の局面においては0.1~5%、好ましくは0.1~2.5%である。

【0014】第1の局面及び第2の局面において用いられる親油性ショ糖脂肪酸エステルとしては、上記HLBが9より小さいものであれば特に限定されるものではない。親油性ショ糖脂肪酸エステルの脂肪酸残基の炭素数としては、8~36が好ましい。親油性ショ糖脂肪酸エステルは1種を単独で用いてもよいし、2種以上を組み合わせ用いてもよい。親油性ショ糖脂肪酸エステルの配合量は、第1の局面において組成物接待の0.1~5

4

%、好ましくは0.5~1%、第2の局面においては0.1~5%、好ましくは0.1~2.5%である。

【0015】第1の局面及び第2の局面において用いられる多価アルコールとしては、例えば、プロピレングリコール、イソプロレングリコール、1,3-ブタンジオール、ジプロピレングリコール、グリセリン、ジグリセリン、トリグリセリン、ポリグリセリン、トリメチロールプロパン、エリスリトール、ペンタエリスリトール、ソルビタン、ソルビトール、グルコース、マルチトール、サッカロース、トレハロース、糖または糖誘導体のエチレンオキシドまたはプロピレンオキシド付加物、ポリエチレングリコール等が挙げられ、特にグリセリン、1,3-ブタンジオールが好ましい。これらは単独で、または2種以上を組み合わせ使用される。これら多価アルコールの種類及び配合量は、組成物の使用感、調度、他の成分との溶解性等により異なる。多価アルコールの配合量は、第1の局面において組成物全体の1~20%、好ましくは9~20%であり、第2の局面において1~30%、好ましくは5~20%である。

【0016】第1の局面及び第2の局面において用いられる上記親水性ショ糖脂肪酸エステル以外の親水性非イオン界面活性剤としては、アルキルグルコシド類、ポリグリセリン脂肪酸エステル類、ポリグリセリンアルキルエーテル類、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシシプロピレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル、プロピレングリコール脂肪酸エステルの酸化エチレン誘導体、モノもしくはポリグリセリン脂肪酸エステルの酸化エチレン誘導体、トリメチロールプロパン脂肪酸エステルの酸化ヒマシ油、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンヒマシ油ピログルタミン酸エステル、ポリオキシエチレングリセリルピログルタミン酸エステル等のポリオキシアルキレン型非イオン界面活性剤等が挙げられる。これらは、アルキル基、フェニル基、脂肪酸残基等の疎水基の炭素数が8~36の非イオン界面活性剤である。これらは単独で、または2種以上を組み合わせ使用される。親水性非イオン界面活性剤の配合量としては、第1の局面において組成物全体の0.1~5%、好ましくは1~2%であり、第2の局面において0.1~3%、好ましくは0.2~2.0%である。

【0017】第1の局面及び第2の局面に用いられる液状油は、化粧料等に通常使用されるものを用いることができる。ここでいう液状とは、25℃で液体状またはペースト状のものであり、揮発性のものでもよい。このようなものとして、例えば、炭化水素類、油脂類、高級アルコール類、高級脂肪酸類、高級脂肪酸エステル類、シリコーン類等が挙げられる。液状油として好ましくは、流動パラフィンが用いられる。これらの液状油は1種を

単独で、または2種以上組み合わせて使用することができる。液状油の配合量は、第1の局面において組成物全体の30~90%、好ましくは60~85%であり、第2の局面において1~20%、好ましくは1.0~10%である。

【0018】第1の局面及び第2の局面において水分量は、他の成分及びその量に応じて適宜選択されるが、第1の局面においては、1~20%、好ましくは4~15%が含有され、第2の局面においては、32~96.7%が含有される。

【0019】第1の局面及び第2の局面の化粧料組成物には、さらに化粧料等に通常使用される陰イオン界面活性剤、非イオン界面活性剤、両性界面活性剤、保湿成分、抗炎症剤、殺菌剤、防腐剤、紫外線・赤外線遮断剤、酸化防止剤、有機及び無機粉体、色素、香料等を必要に応じて配合することができる。また、発明の効果を損なわない範囲で、固形油分、半固形油分等を加えることができる。

【0020】第1の局面及び第2の局面に従う化粧料組成物は、以上の各成分を配合して混合することにより製造することができる。このような配合組成は、通常行う各成分の配合試験等により適宜決定することができる。通常各成分をそれらの融点以上の温度で混合して溶解し、これを攪拌しながら室温付近まで冷却することにより製造することができる。特に好ましい製造方法においては、レシチンを多価アルコール等で膨潤もしくは溶解させた後、得られた混合物を界面活性剤や油性成分と混合し、最後に水と混合する。このような方法により、レシチンの組成中における分散を確保することができる。

【0021】第1の局面に従う化粧料は、特にクレンジング用またはマッサージ用化粧料として適したものであり、メイクアップ化粧料除去用のクレンジング用化粧料として特に好ましく用いられる。

【0022】第2の局面の化粧料は、化粧水、乳液等の化粧料として特に適したものである。本発明の第3の局面に従う化粧料は、窒化ホウ素粉体を含有し、かつジイソステアリン酸ジグリセリル及び／またはトリイソステアリン酸ジグリセリルをバインダ中に含有することを特徴としている。

【0023】第3の局面において、窒化ホウ素粉体の含有量は2~60%が好ましい。窒化ホウ素粉体の含有量が少なすぎると、軽くソフトでのびのよい使用特性が得られず、多すぎると、過剰な光沢が生じたり密着性が強くなりすぎて好ましくない。

【0024】またジイソステアリン酸ジグリセリル及び／またはトリイソステアリン酸ジグリセリルの含有量は、0.2~5%が好ましい。これらの含有量が少なすぎると、薄づきでのびがよく、密着性に優れた使用特性が得られず、多すぎると、使用時にパフへのとれが悪くなり、使用感が重くなる。

【0025】第3の局面において用いる窒化ホウ素粉体としては、h-BN、w-BN、c-BN、r-BN、t-BNなどが挙げられ、それらの中でも、特にh-BNが好ましい。窒化ホウ素粉体の平均粒径は、特に限定されるものではないが、4~5 μ mが好ましい。

【0026】第3の局面における化粧料には、通常化粧料に用いられる一般的な成分を適宜配合することができる。例えばマイカ、タルク、カオリン、セリサイトなどの無機粉末、合成樹脂パウダーなどの有機粉体、酸化チタン、酸化亜鉛、ベンガラなどの無機系顔料、天然色素、各種炭化水素、高級脂肪酸、油脂類、エステル類、高級アルコール、ロウ類等の油分、有機溶剤、可塑剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、防腐剤、界面活性剤、保湿剤、香料、水、アルコール、増粘剤等が挙げられる。

【0027】第3の局面において、窒化ホウ素粉体には、メチルヒドロゲンポリシロキサン等のシリコーンなどにより疎水化処理がなされていてもよい。第3の局面に従う化粧料は、特にアイシャドウとして適したものである。

【0028】

【発明の作用効果】第1の局面に従えば、水分量の変化に対して安定な化粧料を得ることができる。従って、洗浄性に優れ、洗い流し感がよく、ティッシュオフ無しに水のみで除去可能な、クレンジング用及びマッサージ用の化粧料として好適な化粧料とすることができる。水分量の変化に対して安定であるため、チューブ、ポンプ、ジャー、及びエアゾールなどの広範囲な形態の容器に包装可能なゲル化粧料とすることができる。また、第1の局面に従えば、優れた使用感を有し、ベタツキなどのない化粧料とすることができる。

【0029】第2の局面に従えば、安定な半透明または透明状のマイクロエマルジョンを得ることができる。このため、化粧水、乳液などとして好適な化粧料とすることができる。

【0030】第3の局面に従えば、優れた密着性を有し、軽い・柔らかい使用感があり、薄づきでのびがよくかつ透明感がある化粧料とすることができ、アイシャドウ等として好適な化粧料を得ることができる。特にアイシャドウとして用いた場合、タルクの多い配合組成に比べ、優れた透明感を発揮する。

【0031】

【実施例】以下、具体的な実施例を挙げて本発明の第1の局面、第2の局面及び第3の局面を説明するが、本発明はこれらの実施例に制限されるものではない。

【0032】まず、本発明の第1の局面に従う実施例について説明する。

実施例1

下記の表1に示す配合組成によりクレンジング用ゲル化粧料を調製した。表1中に示す成分のうち、レシチン、グリセリン、メチルパラベンを80℃で加熱溶解混合す

る。水を除くその他の成分を、別途 80℃で加熱溶解混合する。得られたそれぞれの混合物を混合した後、室温付近で水と攪拌混合し、冷却して、化粧料組成物を得る。

【0033】

【表1】

成 分	配合量 (重量%)
グリセリン	14.0
水添レシチン (*1)	1.8
メチルパラベン	0.1
トリ (オリーブ/パルミチン酸) グリセリン	20.0
ステアリン酸ショ糖 (HLB 15)	1.8
ステアリン酸ショ糖 (HLB 5)	0.6
流動パラフィン	46.75
ポリオキシエチレン (20) リン酸モノステアリン酸	1.8
トコフェロール	0.05
プロピルパラベン	0.1
水	13.0

*1...Lecinol S-10, 日光ケミカルズ社製

【0034】 以上のようにして得られた化粧料組成物は、水分量の変化に対し安定なものであり、塗布時及び洗浄時に優れた使用感を有し、洗浄性に優れ洗い流し感のよい化粧料であり、クレンジング用及びマッサージ用のゲル化粧料に適したものであった。

【0035】 次に、第2の局面に従う実施例について説明する。

実施例2

下記の表2に示す配合組成の化粧料を調製した。表2中の成分のうち、水を除く全ての成分を80℃で加熱溶解し、この混合物に80℃に加熱した水を攪拌しながらゆっくりと添加する。これを室温まで冷却し、マイクロエマルジョンの化粧料を得る。

【0036】

【表2】

成 分	配合量 (重量%)
ブチレングリコール	1.5
水添レシチン (*1)	1.5
ステアリン酸ショ糖 (HLB 15)	1.9
ステアリン酸ショ糖 (HLB 5)	1.1
ポリオキシエチレン (20) リン酸モノステアリン酸	0.5
液状油	10
メチルパラベン	0.2
水	83.3

*1...Lecinol S-10, 日光ケミカルズ社製

【0037】 以上のようにして得られたマイクロエマルジョンは、非常に安定なマイクロエマルジョンであり、化粧水及び乳液等として好適な化粧料であった。

【0038】 次に、第3の局面に従う実施例について説明する。

実施例3

下記の表3に示す配合組成の化粧料を調製した。まずフェーズAに示す各成分をヘンシェルミキサーで混合した後粉碎し混合分散する。次にフェーズBに示す各成分をステンレスケトルで加熱攪拌 (85℃) し、均一に溶解する。フェーズBの混合物をフェーズAに添加し、混合し粉碎する。得られた混合物を、トレイ中に入れ、プレス成形する。これによって、アイシャドウとして適した化粧料が得られる。

【0039】 なお、フェーズAの成分のうち、窒化ホウ素は、メチルハイドロジェンポリシロキサンを1~3%処理することによりシリコーン処理を施したものである。また、マイカ、セリサイトは、焼成処理、ベンガラによる表面処理及びシリコーン処理を施したものである。

【0040】

【表3】

フェーズ	成 分	配合量 (重量%)
A	マイカ	37.15
	セリサイト	18.0
	窒化ホウ素	18.0
	黒酸化鉄	1.8
	ベンガラ	4.6
	ゲンジョウ	8.5
	赤色226号	1.8
	パラベン	0.15
B	流動パラフィン	5.49
	エステル	3.0
	スクワラン	0.5
	ジイソステアリン酸ジグリセリル	1.0
	天然ビタミンE	0.005
	パラベン	0.005

【0041】 以上のようにして得られた化粧料は、優れた密着性を示し、薄づきでのびが良くかつ透明感のある

アイシャドウとして適した化粧料であった。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁶

A61K 7/032
7/48

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

(72) 発明者 遠藤 義則

滋賀県野洲郡野洲町南桜1300-65

(72) 発明者 宮田 順雄

滋賀県大津市見世1-6-15